

あへつくり和物、

庖厨探檢

や、て、

暑往寒來歲茲に改まり讒話笑語以て新年を迎ふ  
 此の時に際し庖厨の探檢を企つ。或は恐る屠蘇  
 數の子の馳走にありつかんが爲めなりとの疑を受  
 けん事を、されど吾人は鼠にあらす猫にあらす  
 將た犬にあらす、徒らに殘肴を得んとするにあら  
 ざるなり、乞ふ心を安んぜられよ。

庖厨に入つて探檢す其の得る所頗る多し、し  
 かも吾人に多大の満足を與ふるものは肉にあらす  
 酒にわらず將た醬油にわらざるなり、曰く水瓶曰  
 く播鉢曰く播粉木曰く吹竹之れなり、此等の數品  
 が其の玄關に於て客間に於て吾人が探り得たる其

れとは實に月籠の差も只ならざるを見るなり。  
 床の間に飾れるもの壁間に掛けるもの机上に安置  
 せるものを見たる吾人には是にても同じ一家の什  
 器なりや文明の程度に於て數世紀の差違あるにあ  
 らずやと、餘りに其の不釣合不調和なるに驚かざ  
 るを得ざるなり、しかも吾人は此の不釣合と不調  
 和とに於て探檢の目的を果すを得たりと云ふに至  
 りては是亦一驚を價するものならん。

吾人生來見馴れたる習慣を除き虚心平氣以て此  
 等の什器を觀察せんか。彼の播粉木の如何に滑稽  
 なる事よ、生へたるまゝの山椒の木其の皮甚だ  
 粗雜なるを只一二尺の長さに切りたるのみ、鋸刀  
 更に加ふるなし、之を彼の膳椀の削り塗り磨きた  
 るに比して其の差は如何。

吹竹の如何に單簡なる事よ。徑一寸長さ一二尺の

竹筒の一端節ありて一小穴を有するのみ、之を同しく風を起すに用ゐらるゝ扇子團扇に比して抑も如何の感かある

更に水瓶播鉢に至つては如何、粗末の素焼、しかも其の形状亦頗る奇なり、皿鉢の類の其の形状に於て彩色に於て大に意匠を凝らせるに比して實に其の差の甚だしきを見る、

此の大なる不調和、大なる不釣合必ずや大に因する所あるべきなり、従つて吾人に何等指示する所あるべきを信ず、抑も古來學者は我が日本民族の由來につきて大に研究し、其の何れより渡來せしやにつきて議論紛々たるを見る。然るに端なくも此庖厨探檢は吾人に對し此の問題に關する材料を附與せらるゝなり、吾人の探檢を企てたるの理由一に此に存す。

由來吾人の事物を分類すること常に其の類似異動の點に於てす、然るに其の表面の形式に於ては常に轉々變化して毫も止まる處なし故に偶々類似の點を認むるあるも、吾人は容易に之に従ふを得ざるなり、只吾人の従ひ得るは其の裏面の點にあるのみ風俗の如きは殊しくして表面は直ちに變化し去るも裏面は容易に變化せざるなり、彼の衣服の如きは上着は種々變化ありと雖も下着下の帯の如きに至つては大に之に異なり、又一家屋に在りても玄關の構造と便所の構造の如き現時に至る所に此の言を證明して餘りまり、吾人が探檢を玄關客間になさずして庖厨に撰びし所以實に此に存するなり。

日本庖厨の什器が他の什器と非常に不釣合なること前述の如し、而して之を歐米に見るに甚だ趣

きを異にし什器は皆相當の調和をなせるなり。今吾人は一步を進め此等數品と類似の什器を使用する民族を求むるに甚だ容易にしかも全然同一のものを見ず、即ちマレー群島之れなり。同島に於ては以上數品の外彼の貝抄子の如きも全く同一なり、其他尙下帯の如きも同じく、婦人の齒を染むる如きも相似たるあり。是に於て吾人はマレーと日本との關係を疑はざるを得ざるなり。況んや彼我の間には氣候風あり暖流ありて海の交通自から開かるべき氣運を有するに於てをや。

吾人は地理上に於て將た風俗の上に於て又事實に於て我か日本民族は少くも三種の分子を含むを見る曰くアイヌ等を中心とせる固有民族曰く朝鮮民族曰く馬來民族之なり、されど茲に注意すべきは敢て日本民族は他より移れりと云ふにあらざる

事なり、即ち日本民族は日本に發達したるものにして決して他より來りしにあらざるなり。此等の諸民族が日本島なる一つの増城の中に入れられて親密に相混和し以て今日に至りたるものなり。終りに望み一言すべきは維新以來歐米の風習勢を極めて流入し一家に於ても個人に於ても其の影響を蒙る頗る大なり、從つて庖厨の有様亦漸次移り行きて遂に其の古風を探知するを得ざるに至らんとす、今日の機變に逸すべからざるなり、願くは諸姉仔細に之か探檢をせられんことを。

清少納言

ふじのや

今宵の寒さをいかにかくらせ給ふらんなど、わさときよけに、かさいてたる文を、わななき寒か